

IMF、世界経済の軟着陸を示唆

ポイント① 世界経済見通しは底堅いが緩慢

IMF（国際通貨基金）は1月30日（現地時間）に世界経済見通しを改定しました。これによると、2024年の世界の実質GDP（国内総生産）成長率は3.1%になる見込みで、2023年10月時点の見通しから0.2ポイント上方修正されました。2025年の成長率は3.2%と前回から据え置かれました。しかし、これらの水準は歴史的な年平均（2000～2019年）である3.8%を依然として下回る状況です。

ポイント② インフレ率は鈍化する見通し

世界の総合インフレ率は、2023年の6.8%から2024年は5.8%、2025年は4.4%と鈍化する見込みで、2024年の予測値は2023年10月時点の見通しから据え置き、2025年の予測値は下方修正されました。地域別でみると、先進国の方が新興・発展途上国よりも早くインフレが落ち着くとみられています。供給網や労働力等の供給面の改善が進んだことで、GDP成長率が上方修正された中でもインフレ率見通しは下方修正されました。

ポイント③ 下振れリスクはあるも、軟着陸か

IMFは世界経済にとっての今後のリスクとして、紅海における船舶への攻撃が続くことなどの地政学的ショックや、供給の混乱によって一次産品価格が再度高騰することなどによる金融政策の引き締め長期化を挙げています。しかし、デスインフレと着実な成長に伴い、ハードランディング（強行着陸）となる可能性が低下し、世界経済成長に対するリスクは概ね均衡がとれていると言えそうです。インフレ率の鈍化と安定的な成長により、ソフトランディング（軟着陸）への道が開けたと言えます。

国・地域別実質GDP成長率見通し

(前年比、%)

	2023	2024	2025
世界	3.1	3.1 (0.2)	3.2 (0.0)
先進国	1.6	1.5 (0.1)	1.8 (0.0)
米国	2.5	2.1 (0.6)	1.7 (-0.1)
ユーロ圏	0.5	0.9 (-0.3)	1.7 (-0.1)
日本	1.9	0.9 (-0.1)	0.8 (0.2)
新興・発展途上国	4.1	4.1 (0.1)	4.2 (0.1)
中国	5.2	4.6 (0.4)	4.1 (0.0)
インド	6.7	6.5 (0.2)	6.5 (0.2)

(注) IMFによる予測。

(注) ()内は2023年10月時点見通しからの修正幅、ポイント。

(出所) IMF「World Economic Outlook Update, January 2024」
(<https://www.imf.org/>)より野村アセットマネジメント作成

消費者物価インフレ率の見通し

(前年比、%)

	2023	2024	2025
世界	6.8	5.8 (0.0)	4.4 (-0.2)
先進国	4.6	2.6 (-0.4)	2.0 (-0.2)
新興・発展途上国	8.4	8.1 (0.3)	6.0 (-0.2)

(注、出所) 上表と同じ

重要イベント

2月1日 ユーロ圏消費者物価指数（1月）
2月1日 米ISM（サプライマネジメント協会）
製造業景況感指数（1月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。